



会報 第24号
●発行所●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
●編集●
同上編集委員会
●印刷所●
こだま印刷



立山につどえ 大地に芽ばえる友情

第50回 日本学校農業クラブ全国大会
富山大会

在校生に望むこと



同窓会会長
菊地 恒三郎

会員の皆様には、日頃
から同窓会の諸活動に種
々ご協力を賜りまして厚
くお礼申し上げます。
早いもので、平成七年
度「真岡北陵高等学校」
が誕生し、三回目の卒業
生を送り出そうとしてお
ります。

今日の科学技術の進歩
と経済の発展は、物質的
豊かさを生むと共に、情
報化・国際化・価値感の
多様化・少子高齢化・女
性の社会進出など社会の
各方面に大きな変化をも
たらしました。

学科(教養福祉科)では、
高齢化社会の進む中で福
祉教育を推進し、地域の
期待に応えようと、在校
生をはじめ、諸先生方・P
TA・同窓生各位が努力
されていることに、対し
改めて感謝申し上げます。
さて、今年の卒業生の
就職は、長引く不況でか
つてないほどの厳しい状
況であったと聞いていま
す。今後の景気回復も不
透明です。就職する人に
とっては、増々厳しくな
ることが予想されます。
そこで在校生諸君にお願
い致します。

同窓会本会員の先輩方
をはじめ本校の先生方に
は日頃から御指導いただ
き厚く御礼申し上げます。
同窓会青年部を引き受
けて早二年が過ぎ去って
しまいました。昨年度を
振り返ってみると、一年
目の活動に比べて、あま
り活気がなかったように
感じられました。しかし、
一年目同様に事業活動を
思う存分実行して参りま
した。



青年部長
平成二年度卒業
鶴見 英樹

二年目の青年部

どのような年になるの
かは誰にも分かりません
が、今を大切に過ごして
いく事が必要です。

ここで、平成十一年度
同窓会青年部役員を紹介
致します。

- | | | |
|-------|-------|-----|
| 部 長 | 鶴見英樹 | 平二卒 |
| 副部長 | 仁平正美 | 二 |
| 副部長 | 石坂志穂子 | 四 |
| 副部長 | 佐藤実樹 | 五 |
| 会計監事 | 村松芳美 | 二 |
| 会計監事 | 石沢雅士 | 二 |
| 会計監事 | 高橋和史 | 四 |
| 常任委員長 | 齊藤和弘 | 二 |
| 常任委員 | 増田 了 | 二 |
| 常任委員 | 藤田勝典 | 二 |
| 常任委員 | 矢島稔子 | 二 |
| 常任委員 | 薄根伸一 | 四 |
| 常任委員 | 星野朋子 | 五 |
| 常任委員 | 中里一広 | 六 |
| 書記長 | 小宅信子 | 五 |
| 書記 | 手塚和子 | 五 |
| 書記 | 矢口麻美 | 五 |
| 支部幹事 | 阿久津好春 | 二 |
| 支部幹事 | 藤井浩美 | 二 |
| 支部幹事 | 東 裕之 | 二 |
| 支部幹事 | 菊地秀紀 | 三 |

以上二十一名で今年度
一年間運営してきました。
平成十二年度はミレニ
アム(千年紀)の記念す
べき年です。新たな気持
ちで同窓会青年部を活発
にしていきたいと思いま
すので、今後とも、皆様
のご支援、ご協力、ご指
導の程お願い申し上げます。

同窓会の支援に感謝します



学校長
山口 祐司

同窓生の皆様には、常日
頃から母校に対してご支
援・ご協力を賜りまして
厚くお礼申し上げます。
平成七年度真岡北陵高
校が誕生して五年目を迎
えています。その当時学
校のPRのため印刷しま
した学校案内が残り少な
くなりましたので、新し
い学校案内を二千部作成
しました。一学期から内
容を検討し、二学期はじ
めには印刷が完了、各関
係中学校に配付すること
ができました。十月十二
日開催された同窓会役員
会の折、役員の方々にお

見せし、好評をいただき
ました。
この学校案内の印刷経
費ですが、県費から少な
い予算しか令達されてい
ません。その不足額を同
窓会から補助いただい
ております。お陰で平成
十二年度学力検査による
入学試験の応募者数が次
のようになっています。
生物生産科二・〇〇倍
農業機械科二・一五倍
食品科学科二・〇四倍
ビジネス会計科一・二九倍
情報処理科一・六二倍
教養福祉科二・〇四倍

ビジネス会計科が中学
生の高校進学希望調査の
時点で少ないので、商業
的特徴を出せるよう検討
しているところです。
次に本校の射撃部の選
手の活躍について紹介し
たいです。ライフル射撃
競技には、AR(エアラ
イフル)とBR(ビーム
ライフル)の二種類あり、
BRの練習は放課後体育
館の二階で実施していま
す。BR用ターゲット(的)
が四台しかなく練習を
強化すべく一台購入し
ました。(同窓会補助)
その甲斐あって、二年生
の山崎純君が、九月埼玉
県上尾市で開かれたジュ
ニアオリンピック大会B
R六〇発競技で、六八三
点という驚異的記録(日

本高校新記録)で見事に
優勝しました。また、十
二月の全国高校選抜ライ
フル射撃競技関東プロッ
ク大会(新人大会)では、
AR六〇発競技で山崎純
君が第二位、BR四〇発
競技で二年の上野善大君
が第二位となり、山崎・
上野両君とも全国高校選
抜大会に出場することに
なりました。両君の全国
大会での活躍を大いに期
待したいと思えます。
本年度は農業クラブ農
業情報処理競技用ノート
パソコン一台も同窓会の
補助で購入していただき
ました。同窓会の温かい
ご支援によって生徒達は
生き生きと活動していま
す。改めて感謝とお礼を
申し上げます。

叙勲おめでとう

秋の叙勲に輝く



昭和二十一年度卒業
斉藤 喜久雄

先ず以つて斉藤氏はすでに産業功労者として黄綬褒章と農林水産大臣賞を受けています。その上に昨秋十一月に勲四等瑞宝章を受賞されました。この道一筋に三十八年有余の長い経過で尽力と貢献をされた功績が認められたのが主たる理由であります。

昭和三十一年に真岡市中村農業共済組合長に就任された事を皮切りにして、現在芳賀地方農業共済組合長が七期目、県連合会長が五期目をすこぶる健勝な雄姿で在任中であります。この間に全国農業共済協会の副会長の要職にあつて、正に全国的に名声を博しての活躍

過去の思い出(勲六等瑞宝章)



昭和二十年度卒業
宇 梶 武 和

会報を拝読し学生達会員皆様が各所に功績を残された様子が目に止り感動し喜びにたえません。おめでとうございませう。

私こと平成十年秋叙勲受賞に対し会員方々に祝賀記念品等を戴きありがとうございました。心より厚くお礼を申し上げます。学校生活三年間晴耕雨読の教えて毎日鍛錬

地肥沃目的でクローバー緑草地耕作地は三十町と聞いて居りました。三年生になり報徳農場の寮生活に入り、食糧増産で鎌の作業が多く、夜は消灯まで勉強。雨の日は本校への緑り返し。農場は甘藷馬鈴薯が多く作られた。戦争は日ごとに激化し、東京に大空襲があり、南の空が夕やけの様に見えた。各都市に昼夜を問わず空襲があり八月十五日〇時ラジオを通し終戦の報道があり、私等には思ってもいなかった出来事でした。卒業と同時に家を継ぐ祖父よりそ

れとなく米、干瓢の価格の変動を聞かされ、一俵六円十三円、干瓢十貫三円十五円と上下した。私はその時、物を売ることの難しさを教えられたと思つて居ます。私が農業を始めた時は、物の不足で食糧不足経営は難しい反面ヤミの時代でもありその点は良かった。二十七年は病虫害で反当り二俵の水田もあつた。政府米二千円、ヤミ八千円と記憶忘れられませんが、年々生産業が発展し、各家に電化用品、農機具等が入り自動車等も見られる様になって来た。四十年頃より米余りが聞かれる様になり、四十四年、減反をする様になり、米価は少しづつ下降し、たまに干瓢が四十八年には五万円、十貫が二十万円との声もありました。減反は年々増える現況、これからの米作りに心が痛む。昭和六十年後期、平成初期の成長発展が遂にクズレ平成三年頃よりあらゆる産業が倒産し、激変の七十年でした。今右頭が痛い。私の経営は水田一町五反、畑五反、菊の切花千四百坪。家族八人。労働力は四人です。終りに北陵高校同窓会皆様の発展を心より祈り申し上げます。

祝農林大臣賞受賞

過去の思い出



昭和四十二年度卒業
稲 見 孝 一

私は昭和四十三年度に本校を卒業し、専攻を続けて、はや三十年を過ぎてしまいました。私の住む地域は、鬼怒川によって作られた沖積層砂壤土という水田地帯であります。就農当時より、当地域の長所を生かすにはどんな専攻が型が良いのか、また合うのか

ありその点は良かった。二十七年は病虫害で反当り二俵の水田もあつた。政府米二千円、ヤミ八千円と記憶忘れられませんが、年々生産業が発展し、各家に電化用品、農機具等が入り自動車等も見られる様になって来た。四十年頃より米余りが聞かれる様になり、四十四年、減反をする様になり、米価は少しづつ下降し、たまに干瓢が四十八年には五万円、十貫が二十万円との声もありました。減反は年々増える現況、これからの米作りに心が痛む。昭和六十年後期、平成初期の成長発展が遂にクズレ平成三年頃よりあらゆる産業が倒産し、激変の七十年でした。今右頭が痛い。私の経営は水田一町五反、畑五反、菊の切花千四百坪。家族八人。労働力は四人です。終りに北陵高校同窓会皆様の発展を心より祈り申し上げます。

県議当選

北陵スピリットで



昭和四十六年度卒業
田 所 嘉 徳

私は農家の長男として生まれ、長男は家業を継ぐものであると子供の頃から言われてきました。自分自身もそれが当然だと思つておりました。

そのような環境の下で私は県外の下館市ですが、多くの立派な先輩を輩出し、伝統ある真岡農業高校を希望した訳です。一曲がり角にある農業」とは、私達が在校中にも言われていた言葉ですが、私が卒業する頃には農家の後継ぎと言われていた人でも近くの会社などに就職する人が多くなつて

を致しました。農林水産省講堂において、天皇賞受賞者七名の経営紹介と各氏の意見発表がありました。酪農経営の池田氏(北海道)、ぶどう経営の浅野氏(岡山県)、葉用ニンジン経営の青井氏(長野県)他四名の意見発表のなかで、ともに共通することは、土づくりという事です。経営の作物は異なっても農業の基本は土であり、そのために大変な努力があったものと思います。

私にとって、この二日間、多くの皆様と行動を共にし、意義ある二日間でした。

農業士になって

昭和四十七年度卒業



坂 本 安 靖

平成十年度、栃木県農業士に認定されてから早くも一年が過ぎようとしています。日が過つにつれ、その責務の重大さを改めて感じているこの頃です。

私は、昭和四十八年三月に本校を卒業して、農業に従事しました。その当時は、父の稲作の手伝いをすればいいといった感覚で、ほとんどなまけていたような気がします。毎日毎晩、青年団や4Hクラブで遊んでいました。もっとも、今となつてはその当時の仲間達が、かけがえのない私の財産であり、今の私を作ってくれた仲間達でもあります。

たまたま祖父が、母豚を五く六頭飼育しており子取りをしていました。いつのまにか祖父の手伝いをするようになり、卒業の翌年に豚舎を新築して、母豚五十頭の子取り経営を始めました。現在母豚百三十頭の一貫経営を妻と、父の協力を得ながら営んでいます。

私が養豚をはじめた当時は、日本に約四十万戸の養豚農家があつたそうです。しかし現在では、一万戸まで減少しています。とはいえ、飼養頭数は、当時とほぼ同数です。年ごとに飼養頭数の大規模化が進んでいま

優良農家紹介

私が選んだ道



昭和四十二年度卒
益子支部
鈴木 幸介

私は昭和四十三年度真岡農業高校を卒業しました。畜産科を卒業したというよりもありまして、養豚経営を目指しました。我が家の裏山を整地して豚舎を建てました。当時としては思い切った事業でした。私が真岡農業高校へ入学した頃は、中卒で社会に出る者も半数ぐらい居ました。戦後のベビーブームという事もあり、クラスも畜産科は六十名が一クラスでした。そのころ農家ではトラクターが有るのはクラスの中でも一軒位で、今とは比べものにならない時

張っていました。そして運転手に転職し、大型トラクターの運転を八年程経験しましたが、父が早く他界したので、その後は、茄子と水稲で頑張っていました。しかし、時代は変わりに変わって農業の曲り角は目まぐるしく、私はいつしか養豚をやめてしまいました。

優良農家になつて



昭和四十五年度卒
大内支部
菱沼 明夫

私は、昭和四十五年度卒業し、その後高等園芸研修所に入りました。そこで、一年三ヶ月の勉強をし、卒業と同時に三ヶ月間アメリカに行つて花の栽培を見てきました。

改めて、振り返って見ますと、就農して早三十年近くなります。当時は地域に花卉栽培（特に鉢花栽培）をしている方が

仲間と共に



昭和四十七年度卒
物部支部
飯山 一男

平成十一年度に優良農家ということで同窓会から表彰をいただきました。ありがとうございます。なぜ私の様な者かと思うと心苦しく思います。私も二〇〇〇年の正月で満五十歳になります。現在在母を作り始めて二年生になろうとしております。

息子は町の職員として就職してしまつたので、妻と二人でこれから小生の勉強をしていきたいと思つております。



大野原の高台にそびえる懐かしい母校真岡農業高校を卒業し、あつたう間に二十六年が過ぎました。日々の流れの早さに驚き、自分の進歩の無さに恥ずかしい思いで、当時から現在までをたどつてみます。

百姓の長男は、農業高へ行くんだ！と耳にタコ出来る程、物心ついた頃から教え込まれ、違つた高に行くと夢など簡単に打ち砕かれ何の目的も持たず入学し、当然何となく三年間を過ごしてしまいました。振り返ると真農で何を学んだか言えるものはありません。しかし仲間という大きなものを

の思いでたどり着いたことなどもありました。当時から、年に一度は海外に旅行したいと思ひ、気の合った友人と毎年、いろいろな国の農業を視察してきました。

ヨーロッパ、アメリカ、東南アジア等々、特に東南アジアなどは蔑視する人が多いかもしれせんが、教えられることがたくさんありました。

また、そこで知り合つた方々との交流は今でも続いています。それからアメリカへ二十年ぶりにいった時は周りの風景は一変してました。小さかった樹が大きくなつて

我が家の農業



昭和四十八年度卒
中村支部
広瀬 知弘

私は、四十八年度農業科を卒業して就農しました。

そのころの我が家では、水稲四百アール、ナス十五アール、レタス三十アールの経営でしたが、米だけでなく価格が安定していったので、生活できた時代でした。

私の代になつてからは、減反や価格の下落が始まりナス、レタスが経営の中心になりました。真岡のナスの生産が安定したのは、V字栽培が導入されたこと。又、レ



タスは時期ねらいの作物ですが、真岡地区や時期に合う品種が研究されてきて、年々栽培技術が向上し生産者、農協、普及所のみなさんの努力の結果だと思っています。

現在の農業で気づく点は、作れば売れる時代は終わり、販売分野にも消費者の立場に立ち、消費のニーズに応じることが必要不可欠になってきています。

ホットな はなし

昭和五十八年度卒
井野 敏彦

私は今お陰様で中学校教員として勤務しております。思えば真岡農業高校に学んだ、あの三ヶ年間は私のこれまでの人生の中で最も素晴らしい味のある良い時間を過ごせたと思っております。

宇大農学部から教員の間に入り、高校時代から精進を続けた柔道と、趣味の落語が、今日の教員生活で生徒とのふれ合いと授業や部活動の指導に大いに役立っています。

今後とも、私は祖父と父と親子三代の光栄を忘れずに頑張っていきたいと思っております。

農業と私



昭和五十三年度卒
物部支部
中野 和良

私は農業が好きです。最近やつとこう思えるようになってきた。

昭和五十四年に農業高校を卒業と同時にJAの運送のアルバイトで約半年間、苺を都心市場に配達して回りました。以前から作っていた苺を手伝



し、母は体が不自由なため労働力は私と妻の二人ですが、縁があつて二人の優秀なパートに恵まれた年間雇用をえています。お陰様でなんとか人並みには、食べられるようになったと思っています。

今こうしてイチゴを主体にした農業で生活できるのも色々な人のお陰だと思つています。特に苦しい時に励まし、助けられた仲間が居た事が大きい事です。これからは、あまり時代の波に流されず、無理をせず、健康大事に、仲間と共にゆとり

のある楽しい農業経営をしたいと思つています。そして、子供達にお父さんお母さんと一緒にイチゴ作りをしたいと言われる様な、イチゴ農家になりたいと思つています。

人と少なく、そのころの私は土・日曜日に就職した同級生と田畑のまん中で会うのは、自分がみじめに思えていやでした。農家には自由な時間はあつても定期的な休みはありません。自分の時間は自分で作り出さなければならぬのです。その反面やればやるだけ自分に返ってくるのです。収入の面も同じですから、個人経営の小さな会社と同じです。ただ農業は自然を相手にするので、毎年同じことをしては前に進むことは出来ません。

苺に関しては年々技術も進歩し、新しい品種も出てきます。それをどれだけ自分が身につけることが出来るかが、問題だと思っています。私自身、今でも毎年、毎年が発見と

優良農家紹介

魅力ある農業へ



昭和四十九年度卒
山前支部
清水 友好

私が農業高校を卒業した昭和五十年の日本経済は、オイルショックのため外国から石油の輸入が止まってしまい石油不足による異様な経済状態の年でした。私は高校卒業後には他産業へ就職しようと思っていました。それというのも私の家は、水稲中心で得るお金で生活するに農地面積が少なく、父と母は、稲刈りが終わると他産業に出稼ぎ

と、私は実践農家において一年間研修を受け就農しました。現在は、母「とおとめ」を三ノアル、水稲九ノアル栽培にいます。就農して二十三年、なんとか人並みの所得が得られるようになってきました。これまでにあったのも農協、普及センター、両親、友人、先輩方の御指導があったおかげです。ほんとうに感謝しています。私の娘が北陵高校に在学中なので自動車を送り迎えすることがあるのですが、私も母校に行くようになり、この年になって母校の私の卒業した高校の歴史や伝統がある学校を卒業したんだなあと感じています。これからの私の農業経

営方針は、水稲にかかる機械などにコストをかけない、母栽培における速作障害の予防策、両親の老齢化による労力不足、最先端技術の導入によって母栽培の増反、数多くの問題がありますが焦らずひとつひとつクリアして行きたいと思っています。



今年度の活動で特筆すべきものに、北陵祭と体育祭があげられます。まず最初に北陵祭での生徒会の仕事を紹介します。来校された方は、黄色いジャンパーを着た生徒が校舎入口の前でパンフレットを配布したり、テントの下で風船を配布している生徒の姿をお気づきになったことと思います。生徒会の役員から「お客様から目立つよう、何か目印になるものを」という意見が出て下記のジャンパーを作成、着用しま

生徒会活動について

生徒会顧問

森戸 滋

した。その結果、大変好評でした。今後も着目を予定していますので、北陵祭でお困りの際には、この生徒に遠慮なく申し付けていただきたいと思います。

今年は、来校された方が本当に多く、優に千人を超えたと思われます。喫茶店や軽食や、ケークは、午前中で売り切れるほどでした。即売会やバザーにおいても、大変好評でした。

生徒たちの発表においても、研究・展示の数が多く、学習の成果が現れていたと思われま。前回では物品販売の数が多かったため、今回はその反省が生かされていきました。

これも、同窓会の皆様のご協力無しではこれだけの成功を収めることはできませんでした。心より感謝申し上げます。

次に、体育祭について紹介します。ここ数年、午前は男女別、クラス対抗の競技、午後は綱引きなど、クラス対抗の競技という形式で行われてきました。今年度は午後の競技を変更して学科別対抗の競技方式にしました。一年生から三年生までを縦割りにして、六学科で勝負を競うものです。リレー、綱引き、百足競走の三種目を用意していましたが、午

前の種目が延びてしまい、

挨拶と報告

PTA会長

渡辺 重雄

同窓会皆様方には、常日頃よりPTAに対し、御支援を賜り誠にありがとうございます。平成十一年度総会において会員皆さんより御推挙頂き、PTA会長に就任致しました。私も本校真岡農業高校の卒業であります。今まさに世紀末二十世紀最終年度であり、二〇〇〇年にかかるとのときに本校のPTAに携われることを大変光栄に感じております。

校名が変わり、総合選択制高校として生徒たちもそれぞれの学科にて努力をし、また卒業後にもその特質を生かし、活躍されたいと強く感じております。

昨年に続き、農業クラブ全国大会で最優秀賞の受賞、スポーツ関係においても優秀な記録を残し、生徒たちの活躍はもとより、指導にあたられた先生方に対し、心より敬意を表するところであります。

本年度のPTA活動につきましては、四月二十七日に総会を第一回役員会は五月二十六日に開催し、それぞれの委員会活動計画が協議され、十一年度事業の開始となりました。

七月十六日には昨年同様日帰り研修旅行を実施し四十七名の参加者を頂き、群馬伊香保方面へ、会員相互の親睦を深める一日となりました。

十一月に例年行っております収穫祭は、残念ながら中止となりました。

十一月十三日には公開による学校祭が実施され、農産物、バザー、花、売場等時間前から並ぶ盛況振りで、会員の中から毎年の公開で良いのではないかと話していただきました。

私の母栽培



昭和五十年年度卒
山前支部
黒古 忠司

私は、昭和五十年年度に卒業し、同時に就農しました。私の経営内容としては母と水稲を中心とした経営です。

卒業した当時はダナーを中心で単棟ハウスでこもを被せて保温するような栽培でした。

それが六十年ごろからウォーターカーテンに変わり、その二年後に連棟ハウスを建て、就農したころとはずいぶんと作業が楽になり、収入も増えました。また六年前には、夜冷

生徒会活動報告

前期常任委員会	4・4・17	後期常任委員会	10・6・6
中央委員会	4・21・17	芸術鑑賞会	10・26・6
益子養護学校	28・21・17	益子養護学校	11・4・4
交流会(第一回)		学習発表会	11・7・7
牛舎・母狩り		リハーサル	11・7・7
生徒総会		学習発表会	11・7・7
高校総体開会式		学校祭	11・7・7
参加		(映画鑑賞会)	11・7・7
益子養護学校		学校祭準備	11・7・7
運動会		学校祭(公開日)	11・7・7
中央委員会		生徒会任命式	11・7・7
臨時生徒総会		壮行会	11・7・7
壮行会		予餞会	11・7・7
あやめ祭		球技大会	11・7・7
壮行会		27役員研修	11・7・7
夏祭り参加			
ふれあい活動			
参加			
壮行会			
益子養護学校			
交流会(第二回)			
梨狩り			
生徒会役員選挙			
立合演説会			
壮行会			
生徒会役員選挙			
投票日			



農業クラブ活動

二年連続農業クラブ

全国大会最優秀に輝く

農業クラブ顧問 押久保 徹

今年度も、様々な活動を行いました。年間の農業クラブ活動をそれぞれ行事毎に振り返ってみたいと思います。

一、農業クラブ説明会

四月十八日

一年生を対象に本校旧体育館で農業クラブの活動について説明をしました。鑑定競技会の説明では、農業科コース、農業機械科コース、食品科学科コースごとに問題を設定し、問題を生徒席前で提示しながら司会者が質問をして正解者には、記念品をプレゼントしました。また、意見発表の説明では、昨年の本校代表生徒による発表をしてみたいと思います。

二、農業クラブ総会

五月六日

農業科の全生徒を対象に体育館で農業クラブの総会を開きました。総会では、今年度の農業クラブの年間行事や予算・決算などについてクラブ員の皆さんに検討していただきました。

三、校内意見発表大会

五月六日

本校旧体育館にて校内意見発表会を開催しました。この大会は、県大会の選手を決めるものであり、クラス選考後、練習を行ってきたクラブ員も多く、

今年度は、A部門一年一組清水妙美さん、B部門二年三組山下田恵さん、C部門三年三組小川雅美さんの三人が県大会に進み、山下田さんが県大会で入賞しました。

本校旧体育館で校内鑑定競技会を行いました。鑑定競技会は、校内で一位の生徒が全国大会選手となるため、多くのクラブ員が競技会前より学習をしていたようで高得点の解答が数多くありました。今年度は、農業科コースに三年一組の荒井隆至さん、農業機械科コースに二年二組の山本翔さん、食品科学科コース二年三組の黒田真彦さんが富山全国大会に参加しました。そして、荒井隆至さんが入賞を果たすことができました。おめでとうございませう。

五、農業情報処理競技 真岡市情報センターで大会が行われ二年一組の大塚君が最優秀に輝き全国大会に参加しました。

六、栃木県大会 平成十一年七月二十三日 栃木市文化会館を開場にプロジェクト発表県大会、意見発表県大会が同



時に行われました。今回は、A部門「農業の経営や流通に関すること」に六名、B部門「産業人としての生き方に関すること」に七名、C部門「地域の文化や生活に関すること」に六名の参加がありました。また、プロジェクト発表会では、平成十一年の一月に校内大会が行われ、A部門二年一組猪野雄介さん他十一名、B部門二年一組若井田和弘さん他十名、C部門二年三組小川有美さん他十名が出場し、A部門が県大会で最優秀賞となり関東大会に参加しました。八月に千葉県で行われた関東大会でも、最優秀賞に輝きました。そして、富山全国大会に出場し、見事に二年連続最優秀賞を獲得し、農林水産大臣賞もいただきました。全国に誇るプロジェクト発表の伝統は脈々と続いていきます。これからも全国に誇れる発表をするよう努力したいと思います。

農業クラブ全国大会の思い出

三年一組 荒井隆至

私は十月二十一日に富山県で行われた第五十回日本学校農業クラブ全国大会の農業鑑定競技に参加しました。この大会は各地区、各学校の代表が参加して行われる農業クラブで一番大きな行事です。本校からは生物生産科、農業機械科、食品科学科から各一人の計三人が校内予選を通過して進むことが出来ます。今年度は、三年生の私と二年生の山本君と黒田君が出場しました。各県から代表が集まってきたのでレベルが非常に高く大変な競技となりました。昨年は機械科の柳田先輩が代表として来てい

るので失敗は許されないというプレッシャーが常にありました。競技会場に入ると各科に分けられて自分の順番を待ちます。このときも非常に緊張しました。しかし、いざ始まると緊張もほぐれて頭に入れたこと、思い出しながらかつて、結果は努力した甲斐あって優秀賞に入ることが出来ました。

今回の全国大会出場により得た「やればできる」という自信を忘れずに社会に出て、何ごとにも前向きに意欲的に取り組んでいきたいと思っています。最後に、このような機会を私に与えていただき本当に有難うございました。

北陵プロジェクト「日本一」

三年一組 猪野雄介

平成十一年十月十九日から二十一日にかけて、富山県富山市で開催された、第五十回日本学校農業クラブ連盟大会に、プロジェクト発表A部門に、県・関東の代表として参加してきました。「栃木イチゴで村おこしを」後継者が定着できるイチゴ作りを目指したのが家の経営改善」と題して、計十二名で発表してきました。県大会では、少し悔いの残る発表をしてしまいましたが、関東大会では練習成果が十分発揮できたので、自分自身としては満足しています。やはり、「関

オランダ研修に参加して

二年一組 宮崎隆之

私は平成十一年七月八日、八月三日までの約三週間にかけて行われた第十回オランダ農業研修に研修生として参加しました。この研修は県内七校の農業高校の中から代表八名が選ばれ、オランダの酪農家にホームステイして研修を行うものでした。オランダのスキポール空港に着いてからすぐホテルに向いました。バスの中から町の様子を見るとき、たくさんの人が自転車に乗っていました。車は一般道路なら普通のスピードで走っています。が、ハイウェイとなると約百八十キロぐらいの平気

海外研修

収穫多かったオーストラリア研修

三年一組

二年一組

一年二組

富山義和

田代拓弥

山形昌治

今回、研修に参加して、多くの事を学ぶ事が出来ました。メルボルンで参加したクリスマスキャロルは今まで経験したことのないくらい盛大で印象深かったです。しかし、一番印象深かったのは、ホームステイでした。酪農家にお世話になり、オーストラリアの農業を体験できたことは、私に大きな自信となりました。食事も非常に美味しかったです。研修の時、日本に帰ってきた時には3kgも太っていました。今回の研修で多くの人の人に出会えたことが、良い思い出となりました。

現地は冷夏でしたので、とても過ごしやすかったです。送られました。また、二〇〇〇年をオーストラリアで迎えられることは、思い出深いものとなりました。ホームステイ先では色々な所に連れて行ってもらいました。また、酪農家では、酪農家に入ったので、搾乳を行いました。初めての体験ばかりだったので、いろいろな学ぶことが出来ました。今回の研修では、記念すべき日を、ホームステイ先の家族と、カウントダウンでき、良い思い出となりました。



家庭クラブ活動

平成十一年度クラブ活動報告

顧問 高瀬 則子

家庭クラブ活動は、愛情、八月 全国研究発表大会
勤労、創造、奉仕の四つ
の精神をモットーにして
います。家庭科で学んだ
ことを実践することによつ
て、家庭や地域社会の改
善になることを目標にし
て活動しています。生徒
達が自主的に計画を立て、
家庭科教員と連絡をとり
ながら活動しています。
家庭クラブ員の活動がよ
り活発になるように、役
員会を度々開いて、行事
を開催します。今年実施
したもの、これから実施
する行事をまとめてみる
と次のようになります。

四月 役員会
五月 家ク紹介、総会、
家庭クラブ週間
六月 料理講習会
七月 被服講習会
保育実習

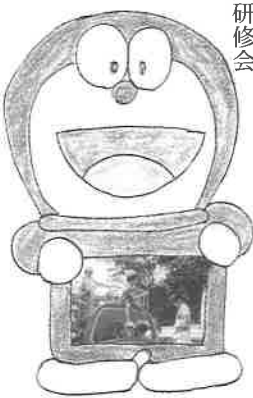
九月 西真岡保育園
交流会（梨狩り）
県連家庭クラブ
研究発表会発表
（矢板）
一 地域福祉の担い
手になるために
家庭クラブ役員
立会演説会選挙
西真岡保育園交流会
（芋掘り）
十二月 調理講習会
家ク意見発表会
二月 調理講習会
三月 家ク役員研修会

青年部活動

いかだ下りに参加して

佐藤 実樹

去夏、一九九九年八月
二十二日、日曜日。第十二
回真岡いかだフェスティ
バルに参加した北陵高校
同窓会青年部は、ゼッケ
ン47番での参加でした。
天候も一時はどうなるこ
とやらと心配してしまし
たが、なんとか晴れてく
れました。
今年度はベスト10には
入賞できず、来年度はこ
そベスト10に入賞できる



青年部活動

学校祭に参加して

仁平 正美

同窓会青年部役員とし
て、今年度はじめて参加さ
せていただきました。
在校生の楽しいイメー
ジがありましたので、気
軽な気持ちで参加しまし
た。イメージとは違っ
たものでした。青年部では
焼そばとチョコバナナを
やらせていただきました。
焼そばは休む暇もな
いくらいに行列ができて
大盛況で、「焼そばがこん
なに売れるものなのか」
と感心してしまいました。
一方チョコバナナも作っ
ては売れてしまいましたが、
次回はもっと頑張りたい
と思います。

研修旅行に参加して

小宅 信子

平成十一年十一月二十
七日に、同窓会青年部と
先生方総勢十名で、茨城
県にある「ポティロン」の
森（別称・江戸崎農業公
園）と牛久の大仏へ行き
ました。天候はよかった
のですが、風が強く寒い一
日でした。学校を出発し、
二時間以上かけてようやく
目的地に到着すること
ができました。ポティロ
ンの意味は欧州で「かぼ
ちゃ」という意味で、その
ためか、入口を通るとか
ぼちゃが置いてあり、農
業公園内は、花や草木が
あり、心が和みます。そし
て、手作り体験コーナー
や見どころであるバター、
アイスクリーム、ソーセー

進路状況

進路指導部長

川口 滋

平成十一年度は、経済
の立ち上がりが遅れ、進
路指導には前代未聞の年
でした。
本校としては、新学科
の第三期生の卒業の年で
あり、昨年の実績を受け
継ぎ大いなる飛躍が期待
された年でありました。
しかし、経済不況は更
に厳しく、大手銀行や大
企業の倒産又はリストラ
の余波を受け、過去経験
のない就職難の年になり
ました。十二月現在で就
職未決定者が、まだ三十
五名もおります。
進学者も前年を大きく
割り込み大学・短大併せ
て十九名の希望者です。
【進学について】
四年制大学には、酪農
学園大、那須大、八戸工大、
流通経済大、関東学園大
に計五名が合格をしまし
ました。生方、青年部の皆様、大変
お疲れ様でした。

短大は東京農業大短大、
国学院栃木短大、白鷗女
子短大、佐野国際情報短
大、作新学院女子短大、北
海道専修短大、桐生短大
に併せて十名が合格をし
ました。
専門学校には県内外の
各分野にわたって計五十
四名が合格しています。
昨年度と比較しますと
進学者が大きく減少した
のと専門学校への進学者
が増加したことがわかり
ますが、大学・短大への進
学者は昨年度を大きく下
回る結果となりました。
【就職について】
経済の混乱と不況に見
舞われ、未曾有の就職難
の年となりました。求人
数の大幅な減少、あるいは
募集停止などの他、大
学生・短大生・専門学校生
の就職活動の早期化によ
り、ますます高校生の就
職が難しくなりました。
ただその中にもあつても
校長先生を始めとした各
科の先生方による地道な
進路開拓により、未定者
を減らす努力が続けてい
るところであります。無
業者も増加しており、昨
年度を上回る実績を上げ
ることは、厳しい状況下
であると考えています。
農業系学科においては、
各学科の特色を生かした
進路選択が見られました。
商業系学科では、事務
系からの求人数が、激減
し、不本意な就職もやむ
を得ない状況でした。
教養福祉科では、福祉
関係施設への就職が内定
した生徒が七名となりま
した。
本年は、昨年に引き続

平成11年度の進路状況(平成12年1月現在)

進学	大学				短大			その他			未定		合計
	国立四大	私立四大	私立短大	別科専修	専門専修	訓練施設	進学未定	進学未定	進学未定	進学未定	進学未定	進学未定	
本年度	0	0	4	0	0	1	19	5	8	41	0	0	41
昨年度	0	0	4	0	0	1	26	4	6	42	0	0	42
合計	0	0	8	0	0	2	45	9	14	83	0	0	83
本年度	4	10	2	1	1	14	6	2	36	61	0	0	61
昨年度	1	1	21	0	1	29	1	4	59	81	0	0	81
合計	5	11	23	1	2	43	7	6	120	142	0	0	142

就職	就職			公務員	自営 研修	在家無業	就職未定	合計
	管内	県内	県外					
本年度	16	16	11	3	1	3	11	61
昨年度	15	24	8	0	0	9	25	81
合計	31	40	19	3	1	12	36	142
本年度	24	24	5	0	0	1	4	59
昨年度	25	29	11	0	0	3	9	78
合計	49	53	16	1	1	4	13	137

編集後記

同窓会員の皆様方には
二〇〇〇年の記念すべき
新年を迎えられましたこ
と本当におめでとうござ
います。優良農家の表彰
とその紹介記事を掲載す
ることは、本会報の特色
の一つであります。
今後はこれに限らず色々
な分野で活躍される同窓
会員の様々な雄姿と光景
を記事として、お知らせ
できるように適切な配慮
を致したく考えておりま
す。
編集委員長 井野 博

計 報

前年度、PTA会長の
梶村健二さんが、ご逝去
されました。
梶村さんは、本校のP
TA活動に大変、御尽力
されたのはもちろんのこと
と地元小学校、中学校、
町連合会長も務められ、
教育に御尽力されました。
心より御冥福をお祈り
申し上げます。